

本調査の報告書は以下のURLでご覧いただけます。

<https://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artsCouncil/research/2949.html>



報告書



第1部 連邦政府の文化芸術助成

- 第1章 連邦政府の文化芸術行政
- 第2章 カナダアーツカウンシルの文化芸術助成
- 第3章 国立芸術センターの文化芸術助成
- 第4章 文化芸術活動に対する助成システムへの評価結果の文化政策への反映
- 第5章 民間団体(カンパニー)およびアンブレラ組織による動き

第2部 州政府の文化芸術助成

- 第1章 州政府の文化芸術行政
- 第2章 オンタリオ州の文化芸術助成
- 第3章 ケベック州の文化芸術助成

別冊 関連文献



別-1 カナダ アーツカウンシル

2021年-26年戦略計画 アート、かつてないほどに
Art, now more than ever 2021-26 Strategic Plan

別-2 カナダ アーツカウンシル

2021-22年年次報告書
Annual Report 2021-22



カナダにおける文化芸術活動に 対する助成システム等に関する 実態調査 報告書 概要版



カナダにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査 報告書 概要版

[委託元] 独立行政法人 日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
<https://www.ntj.jac.go.jp>

[受託先] Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

10 Marina Boulevard, Marina Bay Financial Centre, Tower 2, #33-02, Singapore 018983
<https://nrisg.com/>

発行日 令和5年3月

無断複写・転載はお断りします。

カナダの文化芸術行政を担う機関と各政府との関係

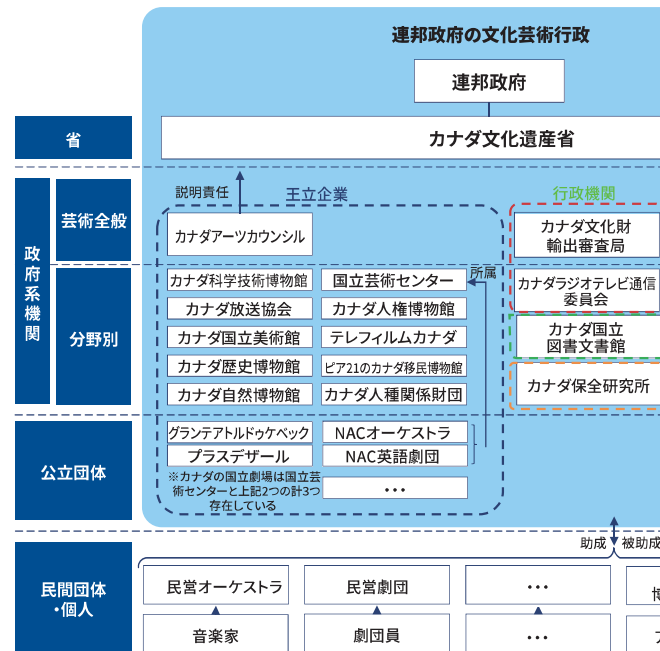
文化芸術行政を担う各機関の関係

カナダは政府の権力と責任が連邦政府と10の州政府の間で分担される連邦国家である。

総人口は約3,699万人(2021年)で、オンタリオ州とケベック州で全体の6割を占めるほど南東部に集中している。公用語は英語とフランス語であり、連邦政府の文化芸術関係機関は両言語で情報を提供している。

文化芸術行政に関して、国レベルの政策は連邦政府が、州・準州レベルの政策は州・準州政府が決定する。連邦政府と州・準州政府の文化関連省の大臣は毎年会合を開き優先事項を共有している。(Federal, Provincial and Territorialの頭文字を取りFPT会合と呼ばれる。)また大臣レベルだけでなく実務レベルでも定期的に会合が行われている。

(報告書 P.14 ~)



■各州におけるアーツカウンシル

(報告書 P.122 ~)

カナダではほとんどの州において、アーツカウンシルに相当する団体が存在している。

なお、プリンスエドワードアイランド州とヌナブト準州には専門のアーツカウンシルがなく、文化省が直接民間団体や個人への資金支出を担当している。

州	組織
オンタリオ州	Ontario Arts Council
ケベック州	Conseil des arts et des lettres du Québec
ブリティッシュ・コロンビア州	British Columbia Arts Council (BCAC)
アルバータ州	Alberta Foundation for the Arts
マニトバ州	Manitoba Arts Council
サスカチュワン州	Saskatchewan Arts Board (SK Arts)
ノバ・スコシア州	Arts Nova Scotia
ニュー・ブランズウィック州	New Brunswick Arts Board (ArtsNB)
ニューファンドランド・ラブラドール州	Newfoundland and Labrador Arts Council (ArtsNL)
ノースウエスト準州	NWT Arts Council
ユーコン準州	Arts Advisory Council (Yukon)

ケベック州とフランス語文化

(報告書 P.150 ~)

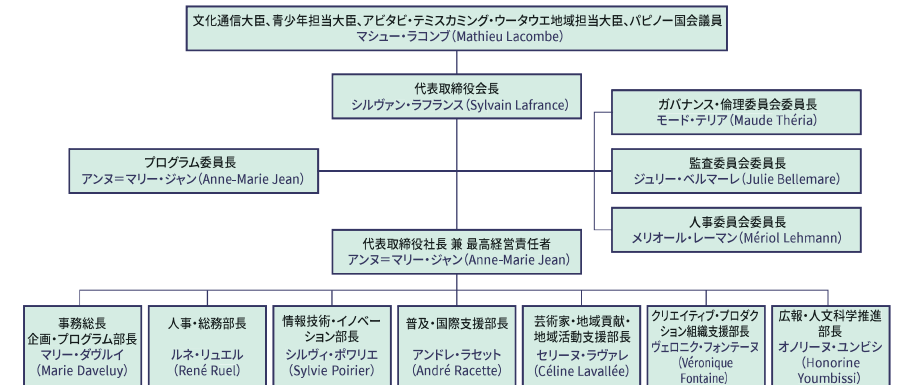
ケベック州はカナダでも数少ないフランス語圏の州であるため、それをアイデンティティの一つとしており、ケベック州文化通信省はフランス語文化を守ることを使命の一つとしている。

- ケベック州政府は1992年に、ケベック州の文化的アイデンティティを主張し、芸術的創造の発展を刺激し、文化的生活への市民のアクセスと参加を促進することを目的とした文化政策を発行した。
- ケベック州では公用語がフランス語となっており、ケベック州芸術文学評議会のウェブサイト全体がフランス語がメインとなっている。また、組織への支援プログラムに関してはフランス語のみの案内となっている。これは、ケベック州内での事業活動はフランス語で行うこととされていることからである。

■組織

(報告書 P.156 ~)

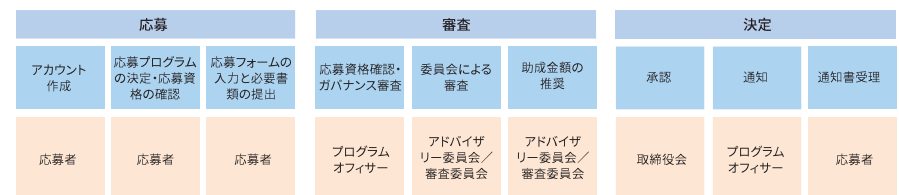
2021年3月時点で、ケベック州芸術文学評議会の正職員および派遣職員は77名(学生・研修生を除く)で、管理職8名、専門職47名、サポートスタッフ23名で構成されている。組織は7つの部門からなり、そのうち普及・国際支援部、芸術家・地域貢献・地域活動支援部、クリエイティブ・プロダクション組織支援部の3つの部門は、クライアントと直接コンタクトを取り個別の管理とサポートを行い、資金援助の要請を管理している。ケベック州芸術文学評議会には研究を専門とする部署は存在しないが、企画部門がプログラムのデザインおよび統計情報の管理の責任を持っている。



■助成プログラム申請の流れ

(報告書 P.169 ~)

助成金の申請は、オンライン助成システム「Mon dossier CALQ」を通じて、下記のフローに沿って行われる。評価はプログラムオフィサーによる応募資格の確認の後、ピア審査員で構成される委員会によって行われる。また、申請する助成金の種類によって必要書類や評価基準は異なっており、ケベック州芸術文学評議会のウェブサイト上から確認することができる。



ケベック州の文化芸術政策

ケベック州芸術文学評議会の文化芸術助成

■目的・使命

(報告書 P.148 ~)

ケベック州芸術文学評議会は1994年に州政府によって設立され、公平で持続可能な芸術の発展を目指し、ケベック州のすべての地域における芸術と文学の創造、実践、制作を支援し、ケベック州、カナダ、そして国外への普及を促進している。

■戦略計画

(報告書 P.154 ~)

ケベック州芸術文学評議会は設立以来、下記の5つのコアバリューを掲げて活動を続けている。

- 芸術家・作家の自律性と創作の自由を尊重すること
- 芸術団体の芸術的・管理的独立性を尊重すること
- 芸術性をお互いに認めること
- 芸術・文学界と協議すること
- 資金援助の配分の厳正さと透明性

また、戦略計画2018-2022における目標は以下の通りである。

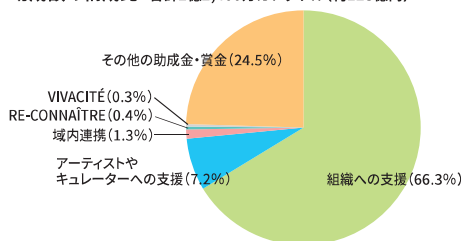
課題	概要
芸術的キャリアと組織を強化する	賃上げやマイノリティ芸術家の需要増加等、アーティストと文化関係労働者の給与と労働条件を改善する
芸術を一般の人々に届ける	地域市民への文化活動への参加の促進や文化の提供など、州内・地域内やデジタル空間における芸術的展開を支援する
知識を共有する	芸術コミュニティとの定期的な交流を通じて対話と知識を積み重ね、評議会について一般の人々の認識を高めると同時に職員を教育する

■助成プログラム概要

(報告書 P.140 ~)

ケベック州芸術文学評議会は、文学や物語、舞台芸術(演劇、ダンス、音楽、歌、サーカス芸術)、複合芸術、メディア芸術(デジタルアート、映画、ビデオ)、視覚芸術、工芸、建築を支援している。助成金の種類は下表の通りである。また、2020-2021年度の助成額の内訳は右図の通りである。組織への支援が全体の3分の2を占め、次いで個人への支援が多くなっている。

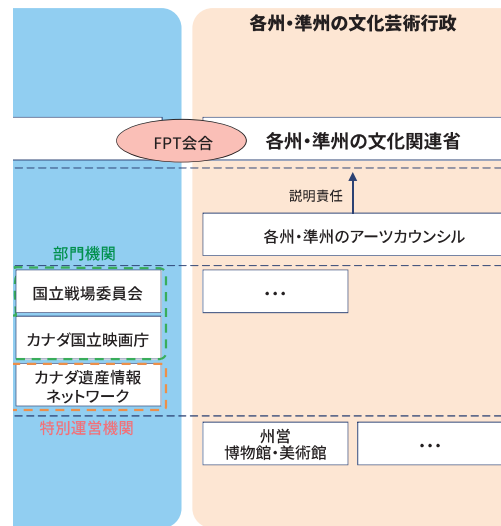
助成額の構成比 合計2億2,400万カナドル(約223億円)



重点分野	目的
組織への支援	文化団体の長期的な活動及び特定のプロジェクトへの支援
アーティストやキュレーターへの支援	芸術家個人を対象とした、制作・研究・発表・出張等への支援
テリトリートナーシップ	地域内のステークホルダーとのパートナーシップへの支援
RE-CONNAÎTRE	先住民芸術家のキャリアと活動を支援
VIVACITÉ	移民や少数民族出身芸術家の活動を支援
その他の助成金・賞金	他のどのカテゴリにも該当しない臨時の助成プログラム

凡例

- 本報告書で「年度」はカナダの会計年度である4月1日から3月31日を指す。
- 本報告書では1カナドル=99.35円(2022年4月1日時点)で換算している。
- 各項目の金額は単位未満を四捨五入しており内訳の計と合計が一致しない場合がある。



民営 物館・美術館	民営 音楽・演劇ホール	...
マチュア団体	アマチュア個人	

■カナダ文化遺産省とカナダアーツカウンシルの関係

(報告書 P.17 ~)

カナダアーツカウンシルは文化遺産省からアームズ・レングスの関係にあり、一定の距離を保ちながら状況に応じて近くも遠くもなるような柔軟な関係性になっている。カナダアーツカウンシルから文化遺産省へ報告の必要はあるが、戦略立案やプログラムの設計・実施において、完全な独立性・自由を有している。ただし一方で、文化遺産省を通して予算が決定されるため、国の政策を完全に無視するようなことはない。管轄されている一方で自由度があるという意味で、文化遺産省が母親でカナダアーツカウンシルが子供のような関係、密着しているわけではないが腕を伸ばせば手が届くような距離感(アームズ・レングス)ということである。

1 カナダ文化遺産省 (報告書 P.17 ~)

Department of Canadian Heritage

国の文化政策を中心に担っている。文化・芸術に加えて、メディア・通信・公用語・スポーツに関する行政・規制・業務を司る。

2 カナダアーツカウンシル (報告書 P.38 ~)

Canada Council for the Arts

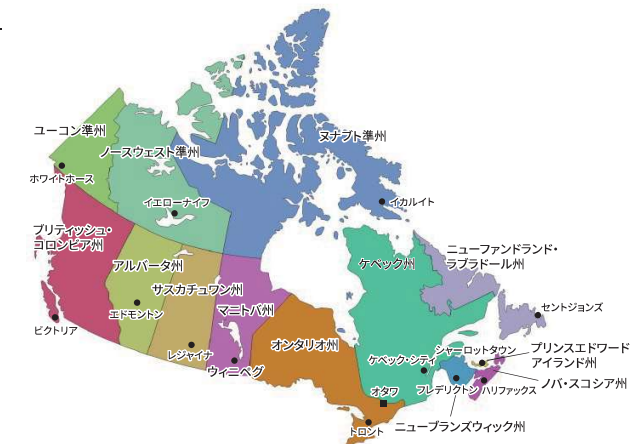
芸術の研究と享受および芸術作品の制作を促進することを役割とし、カナダのプロのアーティストや芸術団体に対して幅広い助成金やサービスを提供する。

3 国立芸術センター (報告書 P.86 ~)

National Arts Centre

舞台芸術のための複合的な拠点。公演の実施に加えて舞台芸術分野の振興を行うことを目的としている。

■カナダ連邦の州・準州と州都・首都



カナダ文化遺産省の文化芸術政策

■カナダ文化遺産省の戦略

(報告書 P.19 ~)

連邦政府が文化政策を通して達成したい大きな目標は「カナダ自国の文化を守ること」である。文化遺産省は連邦政府の目標に資するべく、カナダ人がダイナミックな文化表現を体験し、歴史と遺産をたたえ、強いコミュニティを築くことができる環境整備を促進することを目的としている。

文化遺産省は2022-23年カナダ文化遺産省計画において、以下の5つのCore Responsibility(果たすべき任務)を設定している。さらにCore Responsibilityごとに集中的に取り組む活動の指針が挙げられているが、COVID-19の影響でデジタル化に重きを置いた活動の指針となっている。

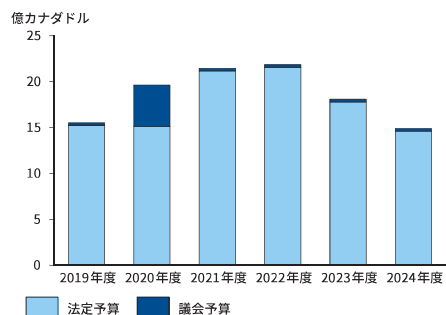
Core Responsibility	所管業務
1 創造・芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> •芸術・文化分野の支援 •カナダ人が芸術文化に触れる機会の確保
2 遺産・祝典	<ul style="list-style-type: none"> •カナダの文化遺産の保存、管理 •カナダ人が国内外の文化遺産に触れる機会の確保 •カナダの博物館等の遺産機関の支援
3 スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> •人種・性別・障がいによらずカナダ人が安全かつ快適にスポーツに取り組む機会の確保 •国内でのスポーツイベントの開催 •オリンピック等に出場するカナダ代表アスリートの支援
4 多様性・包摂性	<ul style="list-style-type: none"> •多文化主義の推進 •人種差別撤廃を目指した政府や地域社会との対話 •先住民言語の保全を目指した先住民との協力
5 公用語	<ul style="list-style-type: none"> •(2つの)公用語法と関連文書の近代化・強化 •少数公用語話者のコミュニティの支援

■カナダ文化遺産省の予算

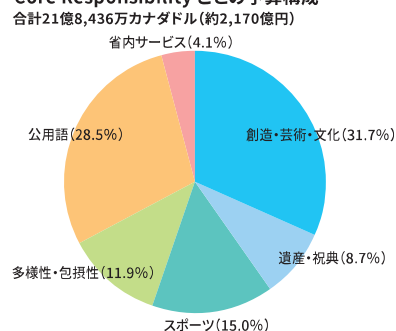
(報告書 P.21 ~)

文化遺産省の予算は予算庁(Treasury Board)から支出されている。予算の推移は左下図の通りであり、2020年度の法定予算の大幅な増加はCOVID-19に関する一時的な支援策のためである。Core Responsibilityごとの構成では本調査のメインスコープである「創造・芸術・文化」が最も多くなっている。

カナダ文化遺産省の予算



Core Responsibility ごとの予算構成

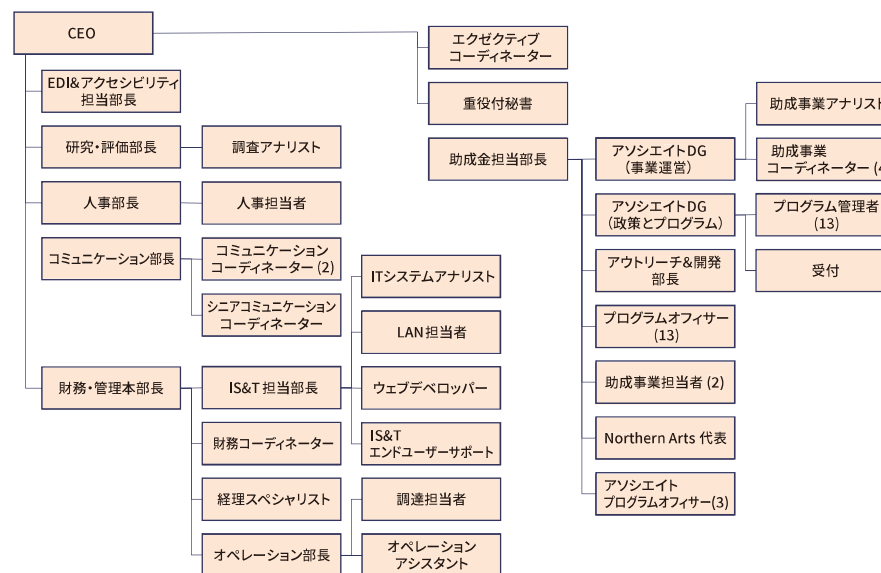


■組織

(報告書 P.137 ~)

オンタリオアーツカウンシルは州内の様々な地域から集まった12人のボランティア理事により運営されている。理事会は、方針を定め、組織の運営を監督している。また、理事会のメンバーは、オンタリオ州における芸術の擁護者として、州内のコミュニティにおいてアーツカウンシルの代表者として重要な役割を担っている。彼らは、3年の任期でオンタリオ州政府によって任命される。

一般の職員数は2022年12月時点で58名で、グラント部門が最も多く38名所属する。グラント部門の職員は、音楽、演劇、ダンス、ビジュアルアート、メディア等の芸術分野ごとのチームに分かれており、各チームに所属するためにはそれぞれの芸術分野における経験が必要となる。



■助成プログラム申請の流れ

(報告書 P.141 ~)

助成金の申請は、オンライン助成システム「Nova」を通じて、下記のフローに沿って行われる。審査は厳格なピア評価プロセスを用いて行われる。



オンタリオ州の文化芸術政策

オンタリオアーツカウンシルの文化芸術助成

■目的・使命

(報告書 P.127 ~)

オンタリオアーツカウンシルは1963年に設立され、すべてのオンタリオ州民の利益のために芸術の創造と制作を促進することを使命としている。

■戦略計画

(報告書 P.133 ~)

最新の戦略計画「Reset. Renew. Revitalize」は2022年から2027年を期間とし、下記の「4つの戦略」を反映している。また4つの戦略に加えて、芸術界における近年の大きなトレンドや目標としてデジタル化、先住民との和解、フランス語圏芸術、先住民芸術を掲げている。デジタル化に関しては、パンデミックの影響を受けて芸術の発表の場としてのデジタルが急速に導入されている。また、グラント申請システムであるNovaシステムが2017年に導入された他、組織内のシステムが全般的に徐々にデジタル化されている。

戦略プランの策定プロセスは2021年1月に開始され、ステークホルダーとの外部協議と、スタッフおよび役員との内部協議が行われた。外部協議は公平性を必要とする人々の声を特によく拾うことができるように慎重に設計され、インタビューや大規模なオンライン調査、オンラインセッションも行われた。

戦略	概要
資金調達のアプローチをさらに発展させ、強さと関連性を構築する	公平な社会の要求の高まりや、芸術部門で起こる変革により合わせた資金調達方法を発展させる。また、そのために必要な、新しい組織原則と必要なインフラ構築の持続可能な方法を追求する。
芸術の影響、利益、価値を増幅する	文化的・芸術的体験によってもたらされる創造性、つながり、無限の可能性をより多くの人々が共有できるようなコミュニティを構築する。また、そのために、芸術がオンタリオ州の経済的福祉と住民の生活の質に与える影響を示すデータを収集する。
プログラム設計とサービス提供のリニューアル	定期的かつ厳密なレビューを通じて、プログラムの適切性、公平性、利用しやすさを保証する。
繋がり、コラボレーション、パートナーシップの育成	資金提供者としての立場を活かし、芸術家や芸術団体が他の団体と協力することを支援すると同時に、戦略的パートナーシップのための独自の能力も開発していく。

■助成プログラム概要

(報告書 P.140 ~)

オンタリオアーツカウンシルの助成プログラムは、工芸、ダンス、文学、音楽、演劇、メディアアート、ビジュアルアート等の芸術分野と、複合芸術を支援している。また、芸術教育やコミュニティ・アートといった特定の芸術活動や、スキル開発、観客育成、ツアー、流通、普及といった特定の分野に焦点を当てたプログラムもある。

- 運営費交付金プログラム：オンタリオ州を拠点とする評価基準を満たした非営利団体および営利目的の書籍・雑誌出版社を継続的に支援
- プロジェクト補助金プログラム：特定のプロジェクトに対して1回限りの補助金を提供

重点分野	目的
創作と発表	革新的で多様な作品の創造、制作、発表に対する支援
視聴者層と市場の構築	州内から国際的なレベルでの発表の機会や観客との接触を支援
地域社会と学校との関わり	一般市民の芸術への参加や芸術家との共創の機会を提供・支援
キャリアとアーツサービスの発展	芸術関係者に対する学習の機会やコラボレーションを支援

■カナダ文化遺産省による助成制度

(報告書 P.26 ~)

文化遺産省が直接提供する助成制度数は42に上る。文化遺産省は文化芸術だけでなくスポーツや公用語についても対象としており、それらへの助成も含まれている。例としてカナダ芸術養成ファンドは以下のようである。

助成事業名	Canada Arts Training Fund カナダ芸術養成ファンド
趣旨・目的	芸術のトレーニングに対する助成。プロのアーティストを養成する芸術団体を財政的に支援する。
助成分野	ダンス、演劇、音楽、ビジュアルアート、分野横断芸術
助成対象	プロのアーティストの養成を目的にした芸術団体
申請者の要件	<ul style="list-style-type: none"> ・非営利団体としてカナダで法人化されている ・プロのアーティストの育成を主目的としている ・卒業生が全国的な影響力を持つ ・全国から入学可能で、全国にまたがる生徒の構成である 等
年間事業実績	2,265万カナダドル(約22.5億円) (2017年度)
年間助成件数	37件(ダンス15件、演劇8件、音楽9件、ビジュアルアート1件、分野横断芸術4件) (2017年度)
助成期間	1年単位、年度区切り
助成額	必要経費の70%まで(最大600万カナダドル(約5.96億円))
助成金の用途	講師の給料や施設費用・スタッフの育成費等、プロのアーティストの養成に直接関係するもののみ
他の助成事業との重複応募	事業の成功のため、他の助成と組み合わせることが推奨されている。ただし政府機関からの助成の合計が全体必要額の90%を超えてはならない。
募集のタイミング	随時受け付けており、2023年は6月30日が締め切り
審査体制	適格性の確認 省内組織NRCによる評価 採否の決定
審査にかかる期間	申請締め切り日から通常28週間程度で結果を通知
審査基準	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術的なメリット：芸術分野における教育、研修、コーチングを通じた卒業生の成功実績やその他の専門家による独立した評価の有無 ・影響力：その芸術分野に詳しい人や働いている人の中での認知度、カナダ全土における影響力 ・組織の安定性：財務およびガバナンスの実践によって示される安定性
採択決定後の手続き	結果と金額をメールで通知後、正式な契約へ

■カナダ文化遺産省と被助成団体の関係

(報告書 P.34 ~)

文化遺産省の助成制度は、組織の維持を目的としたものは少なく、実際の公演等のプロジェクトに対するものが多い。公演を行わないアンブレラ組織の多くはほとんど受け取らない。カンパニーにおいても、連邦・州・自治体のアーツカウンシルからの助成金の割合が多く、文化遺産省から助成を受けていたとしてもその金額や占める割合は少ない。助成・被助成の関係が薄いため、透明性の高い率直なコミュニケーションが可能となっているようである。

カナダアーツカウンシルの概要

■カナダアーツカウンシルの戦略

(報告書 P.48 ~)

カナダアーツカウンシルは、2021-26年戦略計画において活動や投資の指針となる3つの方向性を発表し、それぞれに対応した取り組みを進めている。

戦略計画は関係者共同で策定するもので、このプロセスには6ヵ月から1年の時間がかかる。その間、アート関係のコミュニティとのセッションを開催し、関係者のニーズ・期待・優先事項を理解し、よりよいサポートをするために対話をしている。このような協力的アプローチを通じて、戦略的計画が内部で策定、理事会によって承認、カナダアーツカウンシルによって実施される。策定の際には、期待される成果と測定可能な指標も策定する。戦略計画の進捗の結果は、通常、国会の承認を得た後8月末から9月初め頃に一般に公開されるが、2022年は女王の逝去のため、遅れが出ているようだ。

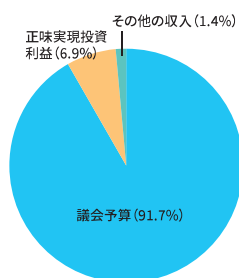
方向性	概要	対応する取り組み
再構築とイノベーションに投資 (Invest in rebuilding and innovation)	持続可能な組織を目指したCOVID-19からの再建やマイノリティが資金にアクセスしやすくなることを目的として、イノベーションやデジタル変革を推進	2020年秋に1億1,650万カナダドル(約116億円)、2021年春に7,500万カナダドル(約75億円)を緊急支援として政府から受け取った。それを「探求し創造する(Explore and Create)」の「調査と創造(Research and Creation)」と「アイデアを形に(Concept to Realization)」や「デジタルナウ(Digital Now)」(臨時)に投資している。
芸術が社会にもたらす恩恵を拡大 (Amplify the benefits of the arts for society)	芸術を通じたコミュニティの活性化や生活の質の向上を目的とした、差別問題や気候変動への対応、報酬やアクセスの公平化	先住民の芸術団体を対象にした助成プログラムを充実させるだけでなく、CCAとして先住民出身のスタッフを4.6%→5.2%、人種的マイノリティのスタッフを16.8%→22.5%、障がいを抱えたスタッフを6.8%→7.8%に増加させた。(2020年度→2021年度)
コラボレーションとパートナーシップの育成と拡大 (Nurture and expand collaboration and partnerships)	芸術の再建とイノベーションのため、部門を超えたパートナーシップやコラボレーション、文化外交を促進	カナダユネスコ委員会が、ユネスコの方針をカナダに適用させ逆にカナダの声をユネスコに届けてきた。2021年秋に行われたユネスコの41回目の全体会合を元にして戦略計画を立てた。

■カナダアーツカウンシルの予算

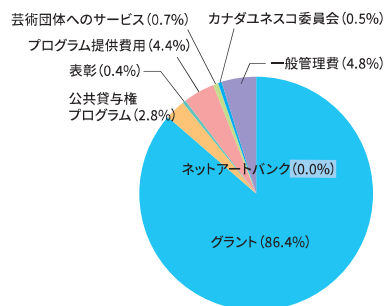
(報告書 P.46 ~)

カナダアーツカウンシルは文化遺産省を通して予算庁(Treasury Board)から資金を調達しており、その資金(議会予算)が大半を占める。民間からの寄附もあるが全体の割合は1%にも満たない。COVID-19を受けた緊急支援により議会予算の割合が増加したため、2020年度、2021年度は収入合計が大幅に増加している。

収入 合計5億5,652万カナダドル(約553億円)



費用 合計5億2,973万カナダドル(約526億円)



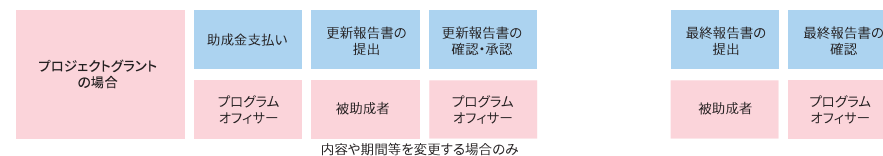
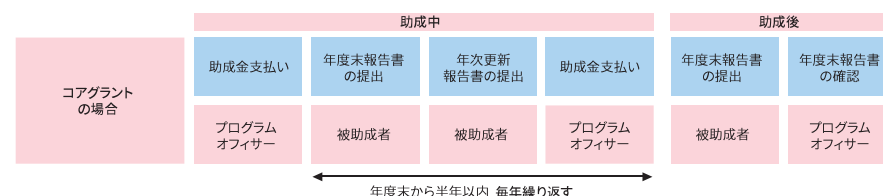
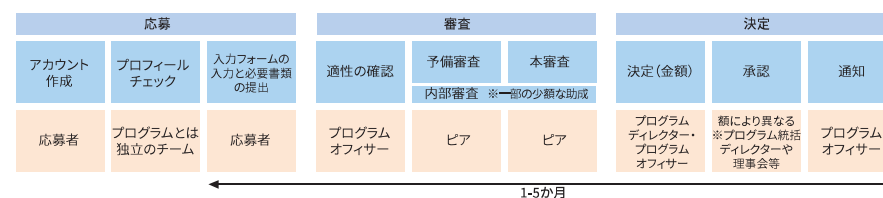
■助成決定までのフロー

(報告書 P.68 ~)

グラントへの応募、審査、採択、助成中から助成後までの流れは以下のようにになっている。ピアによる審査、ピア会議の評価・コメントに基づきプログラムオフィサーとプログラムディレクターが採択するか否か、助成金額の決定を下すが、カナダアーツカウンシルのスタッフが行うのはあくまで助成金額の割り振りであり、結果として採択か否かが自動的に決まる。応募書類の質的な評価は全てピアにより行われる。

プログラムディレクターは、申請者のリスト(ピアによる得点に基づいてランク付けされる)を見ていき、助成金予算を使い切るまで、基本的には申請額の100%(またはピアにより推奨された金額)を割り当てるのみである。

決定の際には、地域間で同じ申請通過率になるように、つまり地域間で助成金の総額が同じになるようにではなく通過率を揃えるようにしている。一方で、芸術分野間のバランスを確保するための取り組みはしていない。助成枠組みは芸術分野とは関係なく、ピアが点数を付ける際の審査基準も芸術分野によっては差がつかない中立的なものになっている。



■ピア制度

(報告書 P.68 ~)

助成プログラムの審査の過程でカナダアーツカウンシルはピア制度を採用している。ピアは独立した存在であり、地元や国内の芸術コミュニティでよく知られている経験豊富なアーティストが務めることが多い。審査には様々な知識が求められる多様に富んだ組織である必要があるため、アーティストに加えて、ビジネスモデル・調査研究・作品管理・公平性・多様性・包摂性等の知識や経験を持つ人々、つまり研究者や芸術振興に関わる人もピアに含まれている。このようなピアは文化芸術界の重要な声と考えられている。

彼らにとってピアになることはピア会議等で他のピアと接触する点で有益であるとともに、応募書類を読むことで、業界でどのような動きが起こっているかを知ることができる。2021年度時点でカナダアーツカウンシルには978人のピアが登録されている。また、ピアは活動の対価として報酬を得ることができる。

ピアグループは、出身地域(州)のバランスや人種バランス、ジェンダーバランスに配慮する必要がある。先住民も含む必要がある。公用語が2つあり英語とフランス語の両方で応募があるため、ピアはバイリンガルであることが望ましい。全員がバイリンガル、というわけではない場合は、言語ごとに2つのグループに分かれることもある。

カナダアーツカウンシルのグラント

■グラントのカテゴリ

(報告書 P.64 ~)

グラントは6つのカテゴリに分かれており、該当するカテゴリのグラントを各アーティストが選択して応募する方式になっている。2008年に監査役が、効率性を高めて成果を測定するためにプログラムの数を減らすべきだと勧告したこともあり、2017年、147種類の芸術分野別の助成枠組みから以下6つの目的別カテゴリからなる助成枠組みに再編した。どの芸術分野を助成するのかということ以上に、助成した結果何を果たしたいのか、助成の目的を重視している。

カテゴリ	概要
探求し創造する (Explore and Create)	多様な芸術の創造と普及を目的とした、芸術家・芸術団体へのグラント
関与し持続させる (Engage and Sustain)	芸術活動を推進する活動を行う団体へのグラント (イベントの主催等)
創造し知り共有する:ファーストネーション・イヌイット・メティスの文化芸術 (Creating, Knowing and Sharing: The Arts and Cultures of First Nations, Inuit and Métis Peoples)	イヌイットをはじめとする先住民の芸術活動を支援するグラント
芸術活動の支援 (Supporting Artistic Practice)	芸術活動の強化に繋がる活動に対するグラント (芸術家の育成等)
芸術をカナダ中に (Arts Across Canada)	芸術を一般市民に広める活動に対するグラント (ツアーの実施等)
芸術を国外に (Arts Abroad)	カナダの芸術を世界に紹介する活動に対するグラント (国外ツアー、翻訳等)

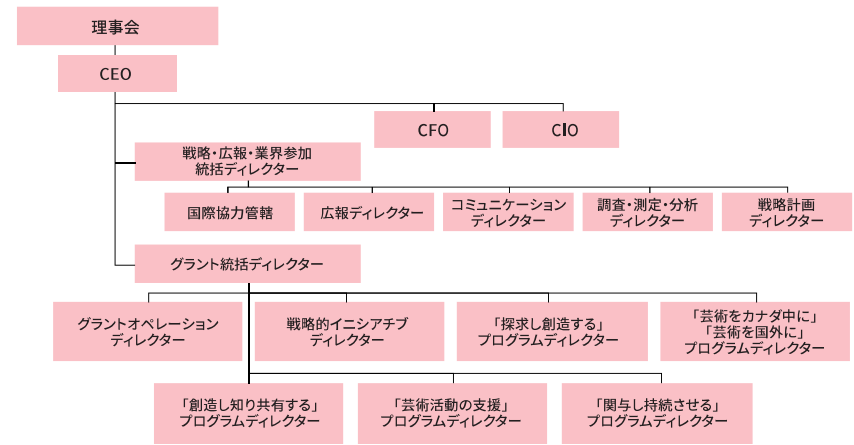
また、グラントにはコアグラントとプロジェクトグラントの2種類が存在する。各カテゴリの中に複数のプログラムがあり、プログラムごとにコアグラント／プロジェクトグラントが決まっている。カテゴリで見るとコアグラントしかないもの、プロジェクトグラントしかないもの、両方が含まれるものが存在する。

コアグラント	文化芸術組織への複数年の資金提供により幅広い運営費(事業の継続的活動のためのヒト・モノへの費用)をカバーする。運営費は以下の項目が一般的である。 <ul style="list-style-type: none"> ●芸術・技術・管理部門を担当するヒト ●マーケティングおよび資金調達のためのヒト・モノ ●従業員の福利厚生 ●プロフェッショナルサービス(会計士・給与計算サービス等) ●電話・インターネット・ウェブ年間ドメイン登録料 ●施設使用料・固定資産税・水道光熱費 ●損害保険および賠償責任保険 等
プロジェクトグラント	単一のプロジェクト、または一定期間に繰り返し行われるプロジェクトを対象とする。通常支払いが1度に行われる。コアグラントに加えて追加で資金を申請することが可能だが、応募は1年に2回までである。(不採択も1回分としてカウント)

■カナダアーツカウンシルの組織

(報告書 P.41 ~)

理事会はGovernor in Council(内閣の指示で活動し法的な文書を発行する。カナダ国民への説明責任を果たすために存在。)に指名された理事長と副理事長、加えて最大9人の委員によって構成されている。組織としては助成プログラムを管轄する部署と戦略やコミュニケーション、調査研究を管轄する部署の大きく2つに分かれている。CEO、CFO、CIOの部署は82名、助成プログラムの部署は175名、戦略等の部署は75名から構成されている。



■カナダアーツカウンシルのスタッフ

(報告書 P.45 ~)

プログラムディレクターが助成の決定や被助成団体とのコミュニケーションにおいて重要な役割を果たす。プログラムディレクターの職掌は以下のようである。

分野	詳細
カナダアーツカウンシル全体	<ul style="list-style-type: none"> ●カナダ各地域の芸術家・関係するワーカー・団体を、創作や発表・能力開発等の面で支援するカナダアーツカウンシルの活動を推進する ●新たな芸術家や新たな芸術的試みを促進する ●先住民・文化的に多様な人々・ろう者・障がい者・公用語少数民族コミュニティの芸術家を支援する
助成事業	<ul style="list-style-type: none"> ●カナダアーツカウンシルのファンドと助成プログラムの実施に責任を持つ ●グラント統括ディレクターの指示によって、特定のプログラム、ファンド、イニシアチブをリードする ●1つまたは複数のプログラム・ファンド・イニシアチブを監督し、規定のプログラム目標および結果を達成することに重点を置く ●1つまたは複数のプログラムにおいて運営上のリーダーシップを発揮し、予算調整を含めてプログラムの効率性と整合性を整理する
管理・対外・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●カナダアーツカウンシルのビジョンと戦略的目標を明確にし、所属部門の整合性を確保し、所属部門がこれらの目標にどのように貢献するかを明らかにし、チームを指導し動機付ける ●意思決定とプログラム評価に資するため、調査・測定・分析チームと協力して、目標に対する結果を監視・分析・報告する ●他のプログラムディレクターの任務をサポートする ●カナダアーツカウンシルを代表して社外の関係者と関係を構築する

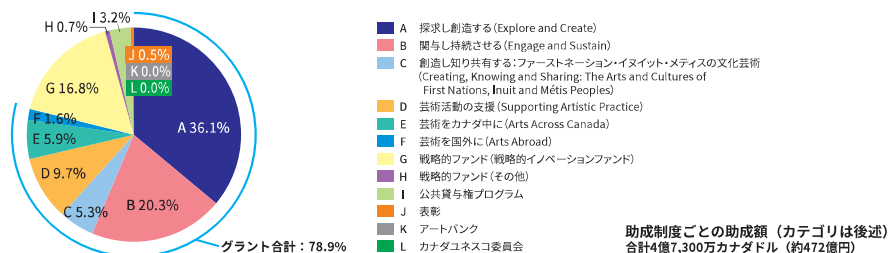
カナダアーツカウンシルの助成制度

■カナダアーツカウンシルの助成制度

(報告書 P.51 ~)

カナダアーツカウンシルの助成には以下の4種が存在する。助成額ではグラントが4分の3以上を占める。

助成制度	概要
グラント (Grant)	文化芸術に携わる個人や団体に資金を提供し活動を支援する。CCAの活動の中心である。
戦略的ファンド (Strategic Funds)	イノベーション・デジタル化や障がい者・公用語少数民族といった社会的な事項に対して戦略的に対応するための助成である。
公共貸与権プログラム (Public Lending Right program)	カナダの公共図書館で著書を無料で公開するカナダ人作家に対し、その分の補償金を支払いサポートする。
表彰 (Prizes)	革新性と卓越性を追求する姿勢を評価し表彰を行う。賞金だけでなく学習機会の提供や楽器の貸し出し等で支援する。



■助成額の多い上位10組織

(報告書 P.62 ~)

2020年度に助成を受けた団体の中で、助成額の多い上位10組織は以下のようになっている。分野別では音楽が多く、プログラムでは「関与し持続させる (Engage and Sustain)」の芸術組織の支援 (Artistic Institutions) の規模が大きい。

組織	分野	合計助成額 (万カナダドル)	日本円換算 (億円)
カナダ国立バレエ団 (The National Ballet of Canada)	ダンス	330	3.28
カナダオペラカンパニー (Canadian Opera Company)	音楽	275	2.73
トロント交響楽団 (Toronto Symphony Orchestra)	音楽	225	2.24
モントリオール交響楽団 (Orchestre symphonique de Montréal)	音楽	220	2.19
バンクーバー交響楽団 (Vancouver Symphony Society)	音楽	192	1.91
レグランバレエ団カナダモントリオール (Les Grands Ballets Canadiens de Montréal)	ダンス	173	1.72
ストラトフォードフェスティバル (Stratford Festival of Canada)	演劇	151	1.50
ウィニペグ交響楽団 (Winnipeg Symphony Orchestra)	音楽	124	1.23
モントリオールオペラ (Opéra de Montréal)	音楽	122	1.21
レッドスカイパフォーマンス (Red Sky Performance)	先住民アート	97	0.96

■グラント

(報告書 P.64 ~)

グラントの概要は以下の通りである。

助成事業名	Grant グラント
趣旨・目的	文化芸術に携わる個人や団体に資金を提供し支援する
助成分野	音楽、舞踊、演劇、ビジュアルアート、サーカスアート、ろう者・障がい者アート、デジタルアート、メディアアート、インターアート、横断的活動、文学
助成対象	文化芸術に携わる個人や団体
申請者の要件	Applicant Profilesにおいて、文化芸術の分野ごとに助成の対象となる活動や組織を一覧化し、応募可能な助成事業と共に提示。 例えばサーカスアートの個人が満たすべき要件は以下。 ・18歳以上 ・カナダ国民かカナダの永住権を持っている ・何らかのトレーニングが経験、実績がある 等
年間事業実績	3億7,294万カナダドル (約371億円)
年間助成件数	7,217件 (2021年度)
助成期間	一定期間、1年、複数年等多様
助成額	枠組み、プログラムにより異なる (最大1万カナダドル (約99.4万円) という設定や年間収益の60%までという設定等が存在)
助成金の用途	コアグラント:運営費 (事業の継続的活動のためのヒト・モノへの費用) プロジェクトグラント:プログラムごとに応募ガイドラインに記載された用途
他の助成事業との重複応募	他の政府機関との重複可能。プロジェクトグラントとコアグラントの重複も可能。一方、1年にCCA内の助成に応募できる数や合計額に上限が細かく存在。
募集のタイミング	プログラムによって異なる。「探求し創造する (Explore and Create)」カテゴリーの「芸術家の育成 (Professional Development for Artists)」プログラムは随時申請可能だが応募書類の回収タイミングが年に5回設定。
申請方法	CCAポータルを通して申請
審査体制	適性の確認 内部審査 (一部の少額な助成のみ) ピアアセスメント (予備審査) ピアアセスメント (本審査) 採否の決定
審査にかかる期間	プログラムによって異なるが、申請締め切りから採否の決定まで1~5ヵ月程度
審査基準	専門分野の多様性・芸術活動の多様性・人の多様性の3つの観点において判断基準はプログラムにより異なるが、「芸術家の育成 (Professional Development for Artists)」であれば以下の基準で採点 影響力40点:芸術の発展への貢献や将来的な成長の機会について 適切性40点:プロジェクトの時期や内容の適切性について 実現性20点:プロジェクトを実行するための能力や経験について
採択決定後の手続き	書面で助成決定の通知がなされる